#### たかつめ の 鷹爪野遺跡

(川辺郡川辺町大字上山田字鷹爪野)

#### 位置と環境

鷹爪野遺跡は川辺町の中心から約10kmほど南西に位置し、君野原というシラス台地端から舌状に突き出た、標高約130mの台地上に立地している。同台地上には田中堀遺跡や枦木馬場遺跡といった縄文時代を主体とする遺跡が所在している。

### 調査の経緯

鷹爪野遺跡は、これまでに川辺町教育委員会が3次わたり発掘調査を実施した。

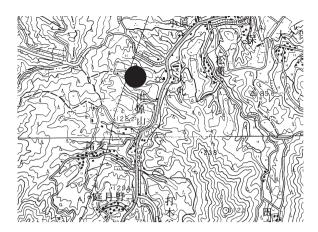
平成4年度の町ゴミ処理場建設に伴う確認調査をはじめとして、平成9年度及び平成10年度に農道建設に伴う確認調査及び一部本調査を実施した。調査面積は、平成4年度が340㎡、9年度が490㎡、10年度が420㎡の合計1,250㎡である。

#### 遺構と遺物

平成4年度の調査では、縄文時代草創期を中心とした遺物や遺構が発見された。約11,500年前の薩摩火山灰層直下から、遺構としては凝灰岩を並べた配石炉1基(写真1)と同じく凝灰岩を集めた集石遺構1基が検出され(写真2)、遺物では隆帯文土器片2点が出土している(写真3)。

また一部拡張した調査地点からは、縄文時代早期 の土器小片が少量出土している。この調査での遺物 出土量はあまり多くなかった。

平成9年度と10年度の調査は、平成4年度の調査 と調査区域が離れているためか、縄文時代草創期の 遺構や遺物は全く出土せず、縄文時代早期の遺構や



第1図 鷹爪野遺跡の位置

大量の遺物が出土した。特に平成9年度調査では遺構と遺物が集中して出土している(第2図)。

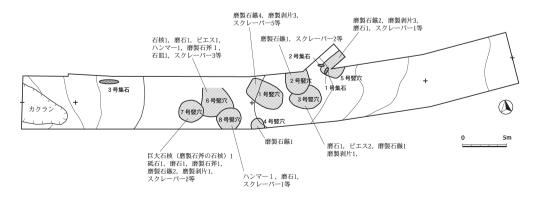
縄文時代早期の遺構は、集石遺構3基、土器や石器を伴った住居跡と考えられる竪穴状遺構が8基発見されている。しかしこの竪穴状遺構群からは、柱穴等は検出されなかった。

縄文時代早期の土器としては、前平式土器、吉田 式土器の円筒形貝殻文土器(写真4・写真5)を主 体として、桑ノ丸式土器、押型文土器等が少量出土 している。

石器では磨製石槍(写真 6),磨製石鏃(写真 7), 磨製剝片,打製石鏃,石斧,石皿等多くの石器が出 土している。特に,磨製石鏃は29点出土しており, 磨製石鏃の未製品と考えられる磨製剝片の20点と合 わせ合計で49点の出土となる。これは縄文時代の早 い時期に南九州においては石器の研磨技術が発達し ていたことを示す貴重な資料である。

## 資料の所在

出土遺物は,川辺町教育委員会に保管されている。



第2図 平成9年度調査遺構配置図

# 参考文献

川辺町教育委員会1994「鷹爪野遺跡」『川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書』(3)

川辺町教育委員会1998「鷹爪野遺跡」『川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書』(6)

(上村純一)



写真1 縄文草創期遺構(配石炉)



写真 2 縄文時代草創期遺構(集石遺構)



写真 3 縄文時代草創期土器

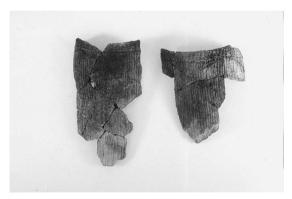


写真 4 縄文時代早期土器



写真 5 縄文時代早期土器

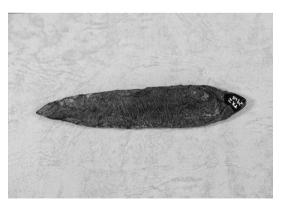


写真 6 縄文時代早期石器(石槍)

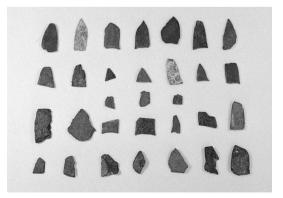


写真7 縄文時代早期石器(磨製石鏃)